

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.4
Q1 室内環境							0.40		-	3.8
1 音環境						5.0	0.15	3.8	1.00	4.0
1.1 室内騒音レベル				共用:[騒音レベル]≤40、住戸:35<[騒音レベル]≤40		5.0	0.50	4.0	0.50	
1.2 遮音						5.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能				遮音等級T-4サッシを使用する。		5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				—		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				—		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				—		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				—		-	-	-	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	4.0	1.00	3.8
2.1 室温制御						3.0	0.50	4.0	1.00	
1 室温				—		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能				省エネルギー等級4である。		3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性				—		-	-	-	-	
2.2 湿度制御				—		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				—		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.6	0.25	4.0	1.00	3.7
3.1 昼光利用						1.8	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率				2%以上を確保する。		1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口				—		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備				—		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御				カーテンと庇で昼光制御している。		3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度				—		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				—		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.7	1.00	3.7
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質				建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量				—		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保。		-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				—		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				—		-	-	-	-	
2 喫煙の制御				—		-	-	-	-	
Q2 サービス性能						—	0.30	-	-	3.3
1 機能性						2.5	0.40	3.8	1.00	3.5
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性				—		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				光・LAN機器の採用にてGbitクラスのプロードバンドが利用可能。		-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画				—		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観				—		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				—		-	-	-	-	
3 内装計画				—		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				維持管理しやすい内装材(床長尺シート)・外装材(50二丁磁器タイル)を使用している。		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				—		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				—		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				—		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				劣化対策等級3相当としている。		5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				—		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				—		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				—		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水VLP(B)、排水VP(B)、冷媒管SUS(C)、Eは不使用。		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				—		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				—		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備				—		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				設計用水平震度KHを1.5とする。		4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				—		2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
	3.1 空間のゆとり			-	-	3.6	0.50	
	1	階高のゆとり	階高は、2.9m以上、3.0m未満	-	-	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	—	-	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		—	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境（敷地内）			—	0.30	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出		—	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.2
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.4
1	建物外皮の熱負荷抑制		—	3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		標準入力法で計算した結果BEIは0.81。	3.9	0.50	-	-	3.9
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.9	1.00	-	-	
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水コマに加えて節水型便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	仕上げ材の下地に軽量鉄骨を使用する。	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）	—	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率77%	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明は、行っていない。	4.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	1.0	－	－	○	－	－	－	○	－					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	○	－	○	○	○	－	－	－	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		－	－	－	－	○	－	○	－	○	○	○	○	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	－	○	－	－	－	－						
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		－	－	○	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		2.0	－	2.0	－	1.0	1.0	1.0	－	－	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	－	－	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		－	－	－	－	1.0	1.0	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		2.0	1.0	1.0	2.0	－	－	－	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	1.0		1.0	－	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	－	－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	－	－	－	2.0	－	－	－	3.0	－			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	－	－	－	1.0	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	－		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	－	窓の日射熱取得率(η)	－
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	－
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	0.8
		η AC	－
屋光率	4.4%		
自然換気有効開口面積率	0.1%		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	75～90 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	2～6F:2. m					
壁長さ比率	0.0%					
床荷重	－ N/m2					

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	34%	建物緑化指数	0%
空地率	55%	水平投影面積率	18%
		地表面対策面積率	22%
		舗装面積率	43%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	－	断熱等性能等級	等級4 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%
		採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす住戸数	0.0%
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW
BEI/BEI _m	再エネ有	－	無
一次エネ削減率	再エネ有	19%	無
		19%	－

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	197%	隣棟間隔指標R _w	0.15
地表面対策面積率	31.3%	屋根面対策面積率	0.0%
		外壁面対策面積率	0.0%
見付面積S _b	777㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	28.573 m
		基準高さH _b	13.84 m
緑地	85㎡	水面	㎡
		保水性対策面	㎡
		高反射対策面	㎡
		再帰性反射対策面	㎡